

自律して問題解決できる児童の育成

—自律を促すための2つの場やワークシートの工夫などを通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（理科）

榎原 有成

本研究では、自律を「適切なときに周りの助けを借り、より最適な考えを自己決定することができること」と定義し、児童の自律についての意識及び問題解決力の向上を目指し、手だての有効性を明らかにすることを目的として授業実践を行った。授業実践では、学習形態を「自律を体験する場」「芽生えた自律性を高める場」の二つに設定した。「自律を体験する場」では、教師が個人で考える時間や話し合いを行う時間を設け、児童が段階的に自律的な学習を体験できるようにした。「芽生えた自律性を高める場」では、発展的な課題を通じて、児童が他者の考えを積極的に取り入れ、より良い考えを見いだすことができるようにした。また、足場かけのワークシートなどを用いることで、個人で考えることができるようにした。その結果、児童は個人で考える良さと他者と関わり合う良さを実感するようになった。質問紙調査や問題解決力を測るための調査問題を実施したところ、自律についての意識に向上傾向が見られ、問題解決の力においても有意に向上したため、本研究で講じた手だての有効性が検証された。